

講座名	くわかい 『さんごうしいき』しゅびつものしんい				
	空海 『三教指帰』執筆の真意				
主担当 講師	ふじい じゆん		仏教学部 仏教学科 教授		
	藤井 淳				
概要	空海は24歳のときに『聾聵指帰（ろうこしいき）』を著した。『三教指帰』は『聾聵指帰』を40歳を過ぎてから空海が一部を改めたものである。『三教指帰』で空海は親族に対して儒教・道教・仏教という三つの教えを比較し、仏教が最も優れていることを示し、官僚となるべく学んでいた大学を決然として辞して僧侶となった。そして従来『三教指帰』は「三つの教えを比較した作品」という理解が中心であった。しかし、その構成と登場人物の名前に注目すると空海は単なる比較を意図していたものではないようである。本講座では空海が本書を著した時代背景を詳しく見ることで、本書の執筆の真意を考えてみたい。				
回数	全 4 回	受講料	4,000 円	配信 期間	12月
講座 レベル	入門	定員	800 名	講座 形式	オンデマンド形式
第1回	タイトル	空海と古代豪族・佐伯氏			
	担当講師	藤井 淳 (仏教学部 仏教学科 教授)			
	内容	空海は讃岐（現・香川県）の豪族・佐伯氏の出身である。この佐伯氏は古代の軍事氏族である大伴氏から分かれたもので、東北地方の蝦夷で捕虜とされたものを統括していた。空海が12歳のとき、佐伯氏・大伴氏の主要人物は藤原種継暗殺事件の首謀者として桓武天皇によって処刑された。第1回では天皇に最古より忠を尽くしてきた古代豪族の佐伯氏が空海の時代に置かれていた位置を確認したい。			
	配信期間	12月 1日 (木) ～ 12月 14日 (水)			
第2回	タイトル	桓武天皇の二大政策 – 蝦夷征討と長岡京・平安京遷都 –			
	担当講師	藤井 淳 (仏教学部 仏教学科 教授)			
	内容	空海は大学で官僚となるべく学んでいた。官僚となって忠をつくすべき君主が桓武天皇であった。桓武天皇は悠久の都・平安京に遷都したことで知られる。この遷都はその前の長岡京遷都とあわせて大和から恒久的に離れる点で画期的なものであった。さらに桓武天皇が推し進めた東北地方での蝦夷征討は多くの殺戮を伴って進められた。第2回では時代背景として稀代の専制君主・桓武天皇を紹介したい。			
	配信期間	12月 8日 (木) ～ 12月 21日 (水)			
第3回	タイトル	『三教指帰』とは			
	担当講師	藤井 淳 (仏教学部 仏教学科 教授)			
	内容	『三教指帰』では“存在しない”という意味の名前を持つ架空の人物たちが対話する。そして儒教・道教・仏教という三段構成で順に後のものが優れているとする。このような人名と構成は中国・漢代の司馬相如「子虚上林賦」に基づく。なぜ空海は「子虚上林賦」をモデルにしたのか。あわせて、空海が出身氏族に抱いていた思いを込めた箇所を紹介する。			
	配信期間	12月 15日 (木) ～ 12月 28日 (水)			
第4回	タイトル	『三教指帰』に秘められた桓武天皇への諫言（かんげん）			
	担当講師	藤井 淳 (仏教学部 仏教学科 教授)			
	内容	本書執筆の最大の背景には桓武天皇が主導した蝦夷征討・新都造営（造営にともなう藤原種継暗殺事件）がある。それらはいずれも空海の出身氏族と深く関わるものであった。第3回までを踏まえ、本書が空海による桓武天皇への諫言であることを明らかにする。			
	配信期間	12月 22日 (木) ～ 1月 4日 (水)			
参考 文献	藤井淳『空海 『三教指帰』 桓武天皇への必死の諫言（かんげん）』慶應義塾大学出版会、2022年 福永光司解説・訳『三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年				
受講に あたっての 留意点	平易な話となるように努めますが、参考文献に大まかに眼を通していただくとより理解ができると思います。				